

防災気象情報の改善及び この夏の天候の見通し

令和7年6月6日
仙台管区気象台

洪水警報等の基準の見直し

洪水キキクルの流路を実態に合わせて修正したため、宮城県内の洪水警報・注意報の基準を見直し、一部の市町村の洪水警報・注意報の基準を変更しました。

その結果、**仙台市では**広瀬川**で洪水警報・注意報の基準値（基準Ⅱ複合、基準Ⅰ複合）の変更を実施し、令和7年5月29日に新たな基準を適用しています。**

仙台市の新たな基準値は、気象庁HPを参照してください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/miyagi.html>

また、流域雨量指数の予測値（6時間先までの洪水危険度）は、以下のURLにて確認することができます。

https://www.jma.go.jp/bosai/floodindex/#area_type=offices&area_code=040000

流域雨量指数の表示例

		2025年05月30日09時20分　現在																											
市町村名	河川名	基準Ⅳ	基準Ⅲ	基準Ⅱ		基準Ⅰ	21時00分	22時00分	23時00分	00時00分	01時00分	02時00分	03時00分	04時00分	05時00分	06時00分	07時00分	08時00分	09時00分	10時00分	11時00分	12時00分	13時00分	14時00分	15時00分	既往最大事例			
		単独	単独	単独	複合	単独	複合																			指数	日付		
仙台市東部	名取川				31.9		28.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	64.9	2019/10/13		
	北貞山運河・南貞山運河	14.3	10.6	9.6	5.3	7.6	4.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	10.7	2019/10/13		
	広瀬川	53.1	39.3	35.7	28.6	28.5	25.7	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	36.6	2019/10/13		
	旧荒川	8.8	6.5	5.9	4.6	4.7	2.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	6.4	2019/10/12		
	坪沼川	18.9	14.0	12.7		9.5	9.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	14.1	1994/09/22		
	支倉川	15.1	11.2	10.2		8.1		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	11.0	2019/10/12		
	七北田川				22.7		19.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	37.2	2019/10/13		
	梅田川	16.3	12.1	11.0	9.8	8.8	5.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	12.2	2019/10/12		
仙台市西部	高野川	9.3	6.9	6.3		4.9	4.9	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	7.0	2019/10/13		
	名取川	64.3	47.6	43.3		34.6		2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	44.5	2019/10/13		
	広瀬川	52.0	38.5	35.0	31.5	28.0	28.0	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	35.2	2019/10/13		
	斎勝川	13.5	10.0	9.1		7.2	7.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	10.0	2015/09/11		
	大倉川	30.9	22.9	20.8		16.6	13.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	22.5	1994/09/30		
	新川	23.2	17.2	15.6		12.4		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	16.1	1999/08/14		
	七北田川	31.3	23.2	18.6	16.7	14.8	14.0	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	25.5	2015/09/11		
	要害川	14.2	10.5	9.5		7.6		0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	10.5	2015/09/11		
高柳川	7.2	5.3	4.8		3.9	3.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	5.4	2015/09/11			

令和8年出水期に運用を予定する 新しい防災気象情報

(令和7年4月時点の検討状況)

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）を踏まえた新しい防災気象情報の運用を令和8年出水期から開始する予定です。
- 新しい防災気象情報では、住民の避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、災害発生の高まりに応じて各情報を発表します。
- この方針のもとで、情報名称の変更、警戒レベル4相当となる危険警報の新設、洪水関係の情報変更、気象防災速報の新設など、現行の大雨警報・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わります。
- 今回の説明では警報・注意報の新体系に触れつつ、新たに新設される気象防災速報、気象解説情報、及び改善される早期注意情報について説明します。

注意：説明内容は現時点での検討状況のため、今後変わりうる点をご承知おきください。

現在の主な防災気象情報の課題

警戒レベル				主な防災気象情報（警戒レベル相当情報）					
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報（避難情報等）	防災気象情報					
				洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害	
				指定河川 洪水予報 (河川毎)	洪水害 (市町村毎)	大雨浸水害 (市町村毎)			
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (浸水害)	大雨特別警報 (土砂災害)	高潮氾濫発生情報	
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞									
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報	
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報 (浸水害)	大雨警報 (土砂災害)	警報に切り替える 可能性が高い 高潮注意報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	洪水、大雨、 高潮注意報	2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報	1相当					

警戒レベルとの対応関係が整理されてはいるものの、次のような課題があってとても分かりにくい。

- 情報名称がバラバラで、どのレベルに相当する情報なのか非常にわかりづらい
- 警戒レベル4相当の情報がないものがある（洪水・大雨浸水）
- 特別警報と警報が同じ警戒レベル4になっている（高潮）
- 高潮注意報がレベル2とレベル3相当に分かれている（高潮）
- 同じ警報が異なる対象災害を兼ねている（大雨警報が土砂災害と浸水害を兼ねるなど）

新しい防災気象情報（R8出水期から運用開始予定） ～警報等の情報～

- 防災気象情報（大雨浸水、河川氾濫、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。**（例：レベル4大雨危険警報 等）
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。（レベルの数字で、とるべき行動が分かる！）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	大雨浸水 低地の浸水や 小さな河川の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 高波による浸水	住民が とるべき行動
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早め に避難、避難の準備など
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や 避難ルート、避難のタイミン グなど）
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

新しい防災気象情報（R8出水期から運用開始予定） ～補足情報～

- これまで、気象警報・注意報を補足する情報等として伝えてきた様々な気象情報を、「**気象防災速報**」と「**気象解説情報**」の大きく2つのカテゴリーに分類して発表。
- 線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など、顕著現象が発生または発生しつつある場合にその旨を、「気象防災速報」として速報的に伝える。

気象防災速報 …… 極端な現象を速報的に伝える情報

現状

記録的短時間大雨情報

顕著な大雨に関する気象情報

線状降水帯 2～3 時前予測
(R8運用開始予定)

顕著な大雪に関する気象情報

竜巻注意情報

今後（令和8年度出水期～）

気象防災速報（記録的短時間大雨）

気象防災速報（線状降水帯発生）

気象防災速報（線状降水帯予測）

気象防災速報（短時間大雪）

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）

気象解説情報 …… 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報

全般/地方/府県気象情報

全般台風情報

気象解説情報（※）

気象解説情報（台風第○号）

※何に注目した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

早期注意情報（警報級の可能性）の変更 ～変更後の早期注意情報イメージ～

(現行)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	[中]	[高]				[中]	—	—	—



(新体系)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12 12-24			
大雨	—	[中]	[高]	[中]	—	—	—	—	—
土砂災害	—	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	—	—	—

①

②

- ① 土砂災害と浸水害を分けずに発表していたものを、令和8年出水期から開始予定の新しい防災気象情報の運用に合わせ、明後日までを対象とした早期注意情報については、土砂災害と大雨に分けて警報級の可能性を発表する。
- ② 上記に加えて、明後日までを対象とした早期注意情報の時間幅を以下のとおり変更する。
 - 明日までは、12時間または18時間の時間幅で発表していたものを6時間の幅で発表
 - 明後日については、1日の時間幅であったものを午前・午後に分けて発表

東北地方の6～8月の天候の見通し（R7.5.20発表3か月予報から）

月別の平均気温・降水量

		平均気温 6月	平均気温 7月	平均気温 8月
東北	日本海側	低20 並30 高50% 高い見込み	低20 並30 高50% 高い見込み	低20 並30 高50% 高い見込み
	太平洋側	低20 並30 高50% 高い見込み	低20 並30 高50% 高い見込み	低20 並30 高50% 高い見込み
数値は予想される出現確率 (%) です				

		降水量 6月	降水量 7月	降水量 8月
東北	日本海側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です				

暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高いでしょう。

6月
期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、ほぼ平年並。

7月
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、ほぼ平年並。

8月
東北日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。降水量は、ほぼ平年並。

※次回3か月予報発表は6月24日

東北地方の6月～8月の天候の解説

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- 太平洋熱帯域の海面水温は中部で低く、西部で高い状態が続くでしょう。また、インド洋熱帯域からフィリピンの東方海上にかけて海面水温が高いでしょう。このため、積乱雲の発生はベンガル湾からフィリピンの東にかけて多いでしょう。
- これらの影響により、上空の偏西風はユーラシア大陸から日本付近にかけて平年より北の位置を流れやすく、チベット高気圧は平年に比べ北側で強いでしょう。また、太平洋高気圧は平年に比べ日本の南で西への張り出しが強く、本州付近を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすいでしょう。
- これらのことから、東北地方は暖かい空気に覆われやすいでしょう。また、梅雨前線の活動が活発となる時期があるでしょう。

